

在宅における「食支援」フォーラム庄内2023 実施要領

1 目的

加齢、疾病あるいは障がいによる嚥下機能の低下により誤嚥性肺炎を併発することや、食事がとれなくなる場合がある。口から食べることが困難になり、胃瘻造設や経鼻経管栄養を余儀なくされることも少なくない。そのような状況下にあっても、「口から食べる」ことにより、栄養素摂取による栄養状態の改善（さらには要介護度の改善）や食べる楽しみ、味わう喜びは生きる意欲につながるため食べることの支援は重要である。

食べることの支援においては、食べられない多くの要因を解決するため、医療職（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリ専門職、歯科衛生士）・介護職（介護支援専門員、ヘルパー、介護福祉士等）等が協働して支援する「多職種による食支援」が必要である。

庄内地域では、この食支援団体として、南庄内地域では「南庄内・たべるを支援し隊」が、北庄内地域では「北庄内食援隊」が活動している。

そこで、在宅医療・介護に携わる関係者同士がお互いの活動を知り、交流することによる活動の強化に繋げるとともに、医療介護職に限らず行政職及び地域住民に食支援の重要性の理解を深めることを目的にこのフォーラムを開催する。

2 対象者

在宅医療・介護に携わる関係者（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリ専門職、歯科衛生士、地域包括支援センター職員、居宅介護支援事業所職員等）、県・市町村の行政職、食支援に関心がある地域住民等
（約300名）

3 開催日時および会場

日時：令和5年10月21日（土）午後1時から午後5時

会場：三川町いろり火の里 文化館なの花ホール 多目的ホール
（三川町大字横山字堤172-1）

4 内容

（1）基調講演 午後1時から午後1時10分まで（10分）

「食支援とは」

山形県庄内総合支庁保健福祉環境部医療監（兼）庄内保健所長、一般社団法人日本在宅ケアアライアンス業務執行理事 蘆野吉和

（2）招待講演 午後1時10分から午後1時50分まで（40分）

「食の支援による京のまちづくり」

一般社団法人愛生会山科病院 消化器外科部長 荒金英樹 氏

- (3) 特別講演 午後2時から午後2時25分まで (25分オンライン講演)
「食べる力の本質を読み解く ～在宅での食支援で大切なこと～」
公立能登総合病院 歯科口腔外科部長 長谷剛志 氏
- (4) 庄内地区からの食支援の活動報告 (30分程度)
- ① 北庄内食援隊
 - ② 南庄内・たべるを支援し隊
 - ③ 嚥下食研究機関、企業等の紹介 (会場後方にパネル等の展示予定)
- (5) 全国各地からの食支援の活動報告 (50分程度)
- (6) 発表者とのパネルディスカッション (45分程度)
- (7) 閉会 午後5時